

2021年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

株式会社 ヤギ

(証券コード 7460)

2021年2月8日

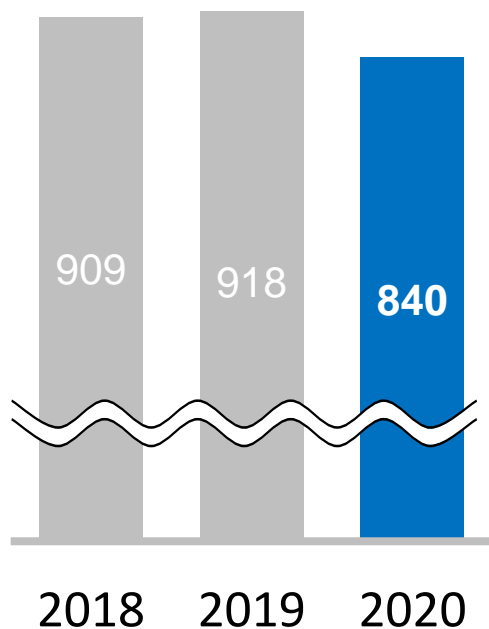
将来見通しに関する注意事項：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2021年3月期 第3四半期連結決算の概要

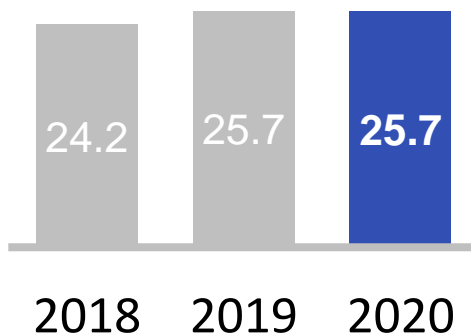
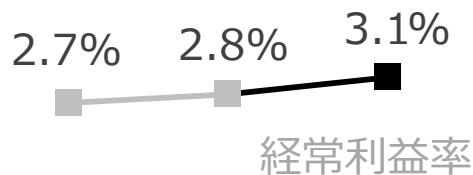
- 売上高840億円（前年同期比増減▲8.5%）、経常利益25.7億（+0.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益16.1億円（▲20.0%）
- 長引く新型コロナウイルス感染症による影響が続き、依然として販売活動が厳しい状況が続いたことにより、減収減益

売上高

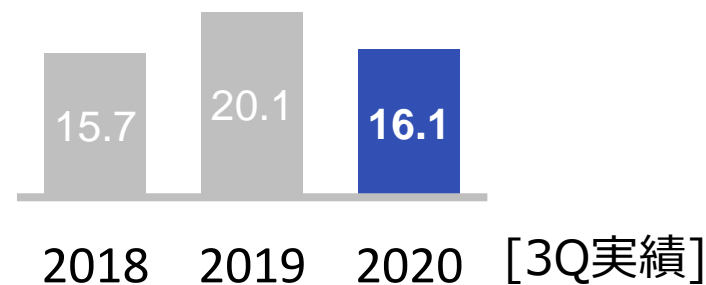
[億円]



経常利益



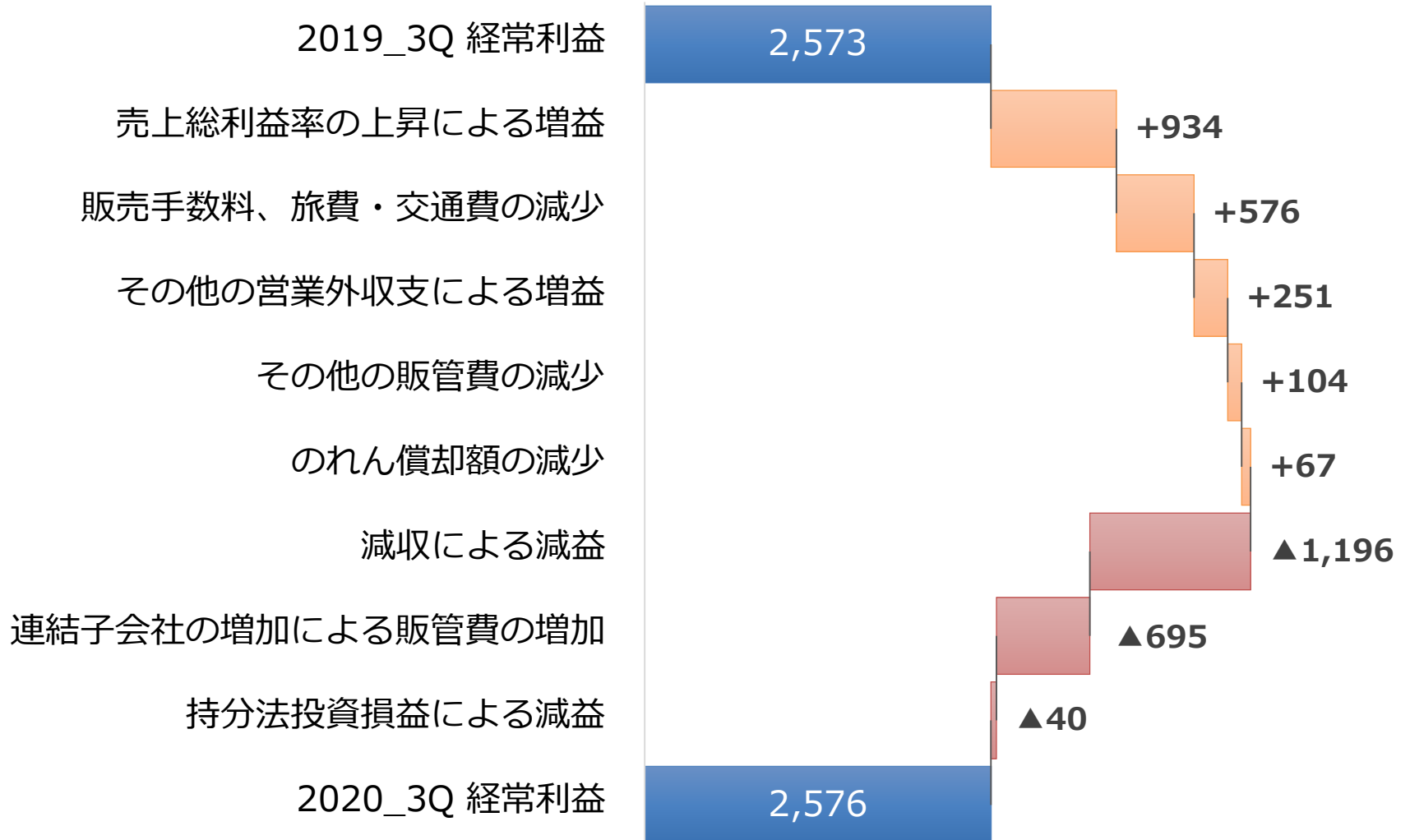
四半期純利益※



※親会社株主に帰属する四半期純利益

経常利益 増減要因

[百万円]



セグメント名称及び開示区分の変更

2020年5月に公表いたしました「中期経営計画 MAKE A DREAM, 1+∞」では、「経営体制の高度化」「事業ポートフォリオの最適化」「次世代事業の創出」「サステナビリティの着実な実行」の重要施策に、グループ一丸となって取り組んでいます。

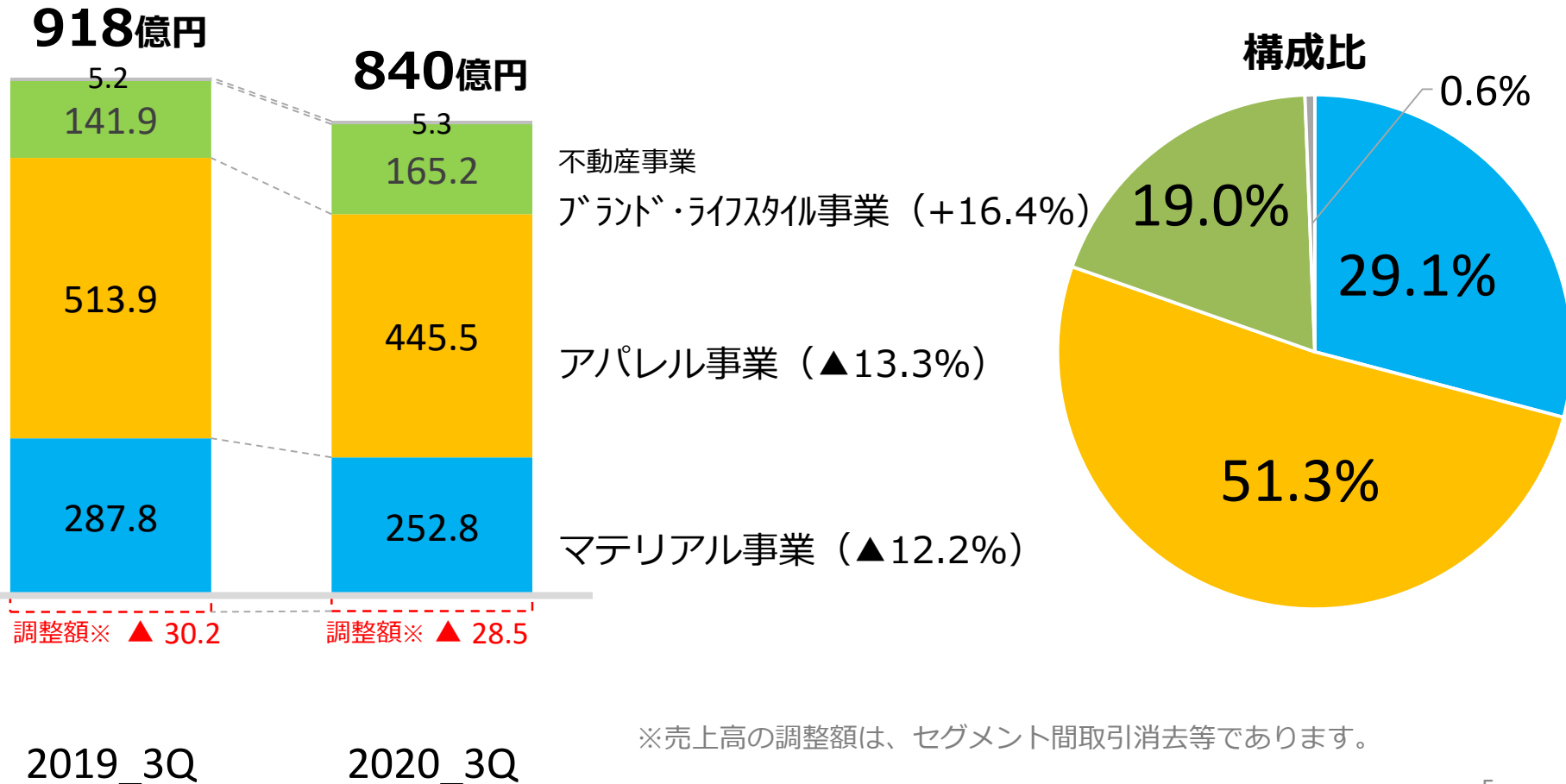
これに沿って、当期より報告セグメントを従来の単一セグメントから4つのセグメントに区分し、事業別の経営組織体制の高度化と意思決定の迅速化を図っております。

変更後

マテリアル事業	原料（糸）及びテキスタイルの製造販売
アパレル事業	繊維二次製品のOEM/ODM事業
ブランド・ライフスタイル事業	自社ブランドの卸・小売、生活資材・寝装品・生活雑貨の製造販売
不動産事業	不動産賃貸事業

セグメント別 売上高

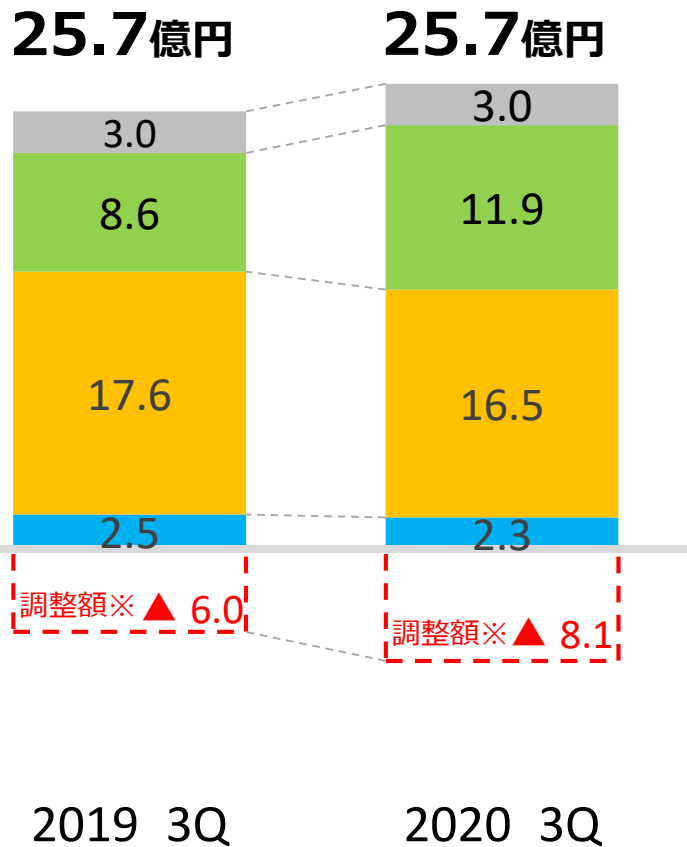
- 売上高 840億円、前年同期比増減▲78億円（▲8.5%）
- 新型コロナウイルス感染症対策の拡がりや政府による経済対策の効果もあり、一度持ち直したかに見えた個人消費が再び足踏み状態になり、市況の停滞感が継続
- 各事業ともに依然として回復が鈍く、特に実店舗（百貨店・小売店）での販売低迷の影響により、マテリアル事業とアパレル事業が大きく減収



※売上高の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 25.7億円、前年同期比増減 +0.0億円 (+0.1%)



主な増減要因

- マテリアル事業 2.3億円 (前年同期比増減：▲0.1億円)**
 - ・天然繊維・合成繊維ともに加工用備蓄糸の販売が回復傾向にあるほか、一部高付加価値原料や通販・量販向けテキスタイル販売は堅調に推移したが、新型コロナウイルス感染症の影響から、各産地のニッター、染工場、加工場等で稼働率の低調推移が続き、依然として厳しい事業環境が継続したことにより減益
- アパレル事業 16.5億円 (▲1.0億円)**
 - ・新型コロナウイルス感染症により家庭内時間が増えた背景を追い風に、一部通販向け事業ではホームウェアや高価格帯商材の販売が好調であったほか、量販向けでは子供服やインナー商材が堅調であったものの、依然として百貨店・小売店など実店舗での販売先は苦戦を強いられたことにより減益
- ブランド・ライフスタイル事業 11.9億円 (+3.2億円)**
 - ・ブランド品を扱う事業においては、依然として実店舗での販売不振により苦戦が続いたが、生活資材事業や家庭内の抗菌抗ウイルス商材といったライフスタイル事業は堅調に推移し、またコスメブランド向けマスクやナノファイバー製品ブランドを活用した高機能素材マスク等の販売促進も積極的に展開したことにより増益
- 不動産事業 3.0億円 (+0.0億円)**

※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

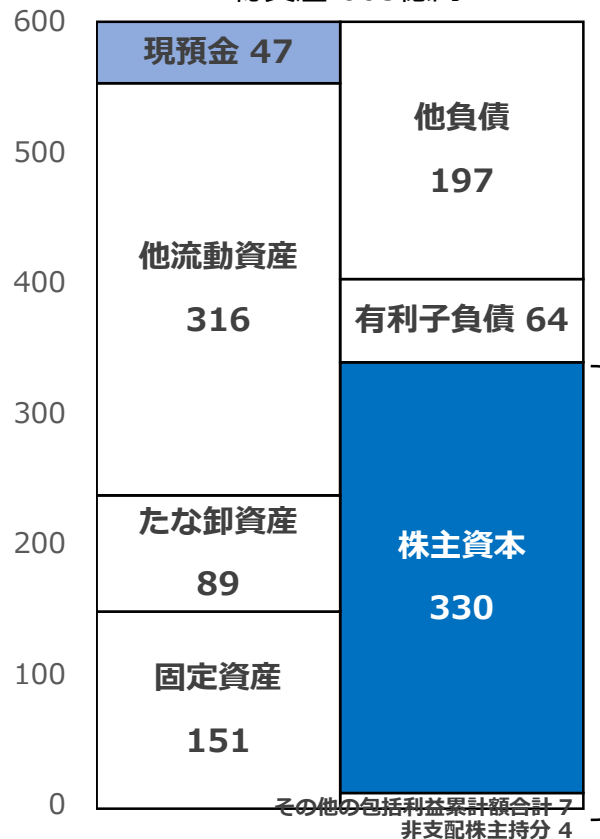
バランスシート状況

- 現金及び預金は前期末比増減 + 48億円（事業環境に対応し手元流動性を向上）
- 自己資本は + 18億円（株主資本は + 15億円）
- 自己資本比率は51.0%（前期末比▲4.9pt）

[億円]

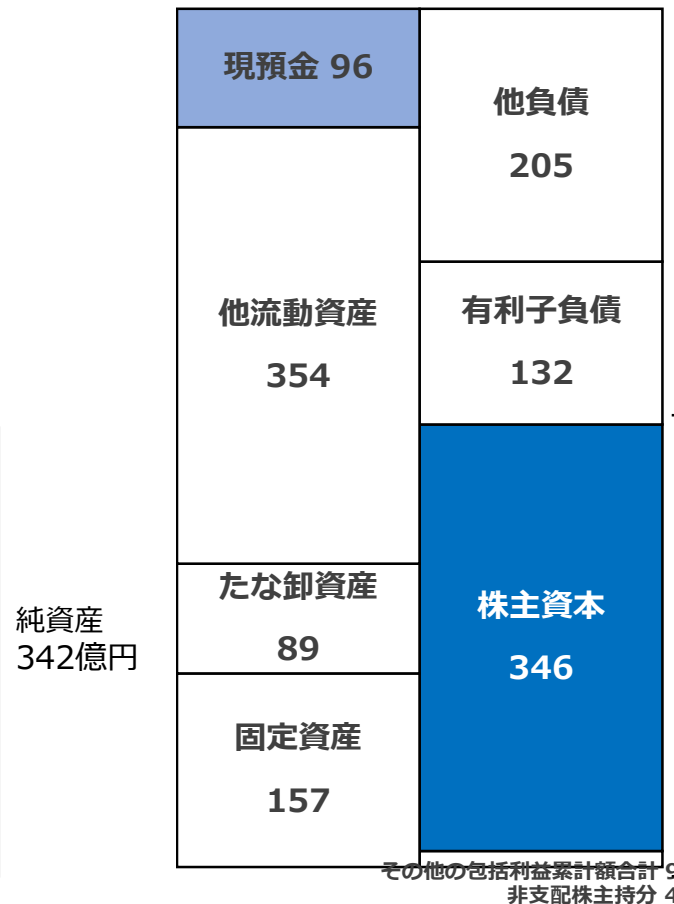
2020年3月期末

総資産 605億円

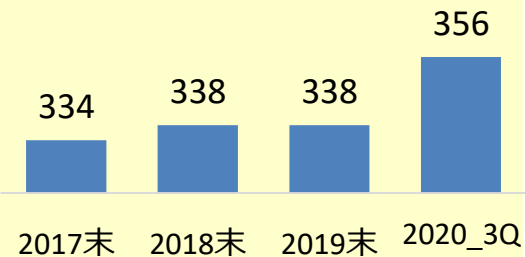


2021年3月期第3Q末

総資産 697億円



自己資本



	2019末	2020_3Q末
自己資本比率	55.9%	51.0%

純資産
360億円

2021年3月期の見通しと対策

■ 2021年3月期通期業績予想及び配当予想

今回業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
1,060億円	15.5億円	15億円	8億円	96円55銭

※親会社株主に帰属する当期純利益

今回配当予想

第2四半期末	期末	合計	配当性向
—	35円00銭	35円00銭	36.3%

※通期連結業績予想及び配当予想につきましては、2020年11月11日付リリース「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」から変更ありません。
上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 今後の対策

コロナ禍においても伸びている通販・EC向け分野について重点的に強化します。また、衛材需要に対する迅速な対応を行うため、衛材開発プロジェクトチームにより、更なる収益拡大を強化します。

- **マテリアル事業**：環境配慮型商材への更なるシフトを行い、新規需要の取り込みを強化します。また、当社テキストスタイルECサイト「Fably」を全国各地のサプライヤーが参加するオープンプラットフォームとして進化させ、サービスの拡充と新規顧客の開拓を行います。新たに「Fably Medical」を立ち上げ、様々な衛材商品のニーズにも対応します。
- **アパレル事業**：今後も厳しい事業環境が予想されますが、QR対応とコスト削減を強化しつつ、感染症拡大の収束後を見据え、好調な事業への経営資源の集中により利益の増大を図ります。また、DtoCへの対応を強化して高収益化を目指します。
- **ブランド・ライフスタイル事業**：引き続き、需要の高いコスメブランド向けマスクや高機能素材マスク、抗菌抗ウイルス商材といったライフスタイル事業を強化します。一方で、ブランド小売事業における実店舗の見直しとEC販売への更なるシフトを行います。新型コロナウイルス感染症をきっかけとした人々の価値観・生活様式の変容と、そこから生まれる新たなニーズに対応したライフスタイル商品の開発と販売拡大を強化します。